



木津の小阿賀野川堤防沿いの桜 夜空に美しくライトアップ

4月7日から17日までの夜間、木津さくら会館前の小阿賀野川堤防沿いに植えられている桜が、今年もライトアップされました。

地域公民館のメンバーたちのアイデアで、立派な桜を活かして地域おこしをしたいと平成8年春から始められたライトアップは、すっかり春の風物詩として定着。近年では、町外からも夜桜見物に来ている人もいます。

立派に成長した5本の桜と、平成2年に住民の人たちによって植えられたコブシが、日中は青空のもとと色鮮やかに咲き誇り、夜は暗い夜空の中に提灯とライトで幻想的に映し出される中、地域の人たちは、持ち寄った酒やおつまみを味わいながら、世間話に花を咲かせ、子どもたちは木のまわりで駆け回って遊んでいました。

「家の近くで立派な桜を見れてうれしい。この桜は地域に親しまれています」と、地域の人が話していました。

安産・子育ての神さま 胞姫神(えなひめさま) 子どもの健やかな成長や安産を祈る

4月15日、川根町1丁目の妙泰寺で、胞姫神御祭(えなひめさまおまつり)が行われました。

この祭りは、安産と子育ての神さまとして信仰されている「胞姫神」(えなひめさま)の縁日に、安産や子ども・孫の健やかな成長を願って、厳しい修行を積んだ僧侶が、お経を読みながら経典で訪れた人の背中などをさするなどして加持祈禱を行うもので、妊娠した女性や子ども連れのお母さんやおばあちゃんなど、町内だけでなく近隣市町村から人々が訪れ、手を合わせて祈っていました。

その昔、源義経が奥州落ちの途中で奥方が産気づき、胞姫神に祈ったところ苦痛なく子どもを生むことができたという伝説が柏崎市にあり、その神さまを祀っている妙泉寺(柏崎市)から、妙泰寺へ明治26年に分霊したものが、写真の胞姫神です。妙泰寺では、この日だけでなく依頼があれば、祈禱を行っているそうです。



阿賀野川と信濃川を結ぶ小阿賀野川 水上からの川めぐりで地域再発見

4月17日、新潟地域振興事務所と新津地域振興事務所の主催により、水上からの川めぐりが開催され、近隣市町村の住民など74名が参加しました。

昨年12月から3回にわたり小阿賀野川「川おこし」ワークショップが開催され、川や地域の魅力を活かした地域づくりを沿線住民などが協力して考えてきました。この中で、実際に現地体験しながら議論を深めたいという意見を受け、今回の川めぐりが企画されました。

午前は、白根市の信濃川河川敷にある赤浜防災ステーションからコーレンボウという運搬船(長さ:14.0m、幅3.8m)に乗船し、小阿賀野川を通過して、新津市満願寺の阿賀野川河川敷までの約17km、2時間の船旅で、午後はその逆のコースで運航。ふだんは見ることのできない船上から、梨畑や野鳥を眺め、春の風景を楽しみました。

参加者から「花や新緑がきれい。川からの眺めは全然違って、おもしろかった」という感想が聞かれました。



小阿賀野川とJR信越本線鉄橋(二本木付近)



整備が進む横雲ニュータウン。人々が賑わう日も間近です。

横雲ニュータウンオール電化住宅フェア 住み良い住宅設計プランを提案

3月27日・28日の2日間、宅地分譲中の横雲ニュータウンで、オール電化住宅フェアが開催されました。

このイベントは、地元業者の活性化、すべてを電気で賄うオール電化プランと横雲ニュータウンのアピールを目的に、にいつ・E家つくる匠会と横越町建築組合が主催、横越町商工会などの協力により企画されたものです。

当日は町内外の建築業者・工務店25社が、自分たちの建築技術と住み良さを追求した自信の住宅設計プランを来場者に提案。また、火を使わず調理できるI・Hクッキングヒーターでの調理実演、環境にやさしい蓄熱式電気暖房器や電気温水器などの展示コーナー、住宅購入やオール電化住宅、ローンなどの相談コーナーも設けられ、来場者は色々なところを見学したり、担当者に質問していました。

横雲ニュータウンは面積7万6,355.85㎡で、横越インター東土地区画整理組合により整備が進められています。

春のやさしい日差しの中 横越小学校で元気いっぱい入学式

4月6日、横越小学校で入学式が行われました。

春のやさしい日差しの中、新1年生はお父さんお母さんに手を引かれながら初登校。中には保護者の手を振り払って校舎に駆け込む姿も見られました。

107名の新1年生は列席者の温かい拍手に迎えられ、少し緊張しながらも大きな体育館に目をキョロキョロさせて元気よく入場。鈴木校長先生から「お兄さんやお姉さん、先生たちもみんなが来るのを心待ちにしていました」と歓迎のあいさつがあり、「朝、おはようと言えた人」「朝ごはんを食べてきた人」「着替えを一人でできた人」などの問いかけに元気に手を挙げて応えていました。また、2年生からは歓迎の言葉とともに、手話を交えながらの歌のプレゼントがありました。

入学式の後、教室に戻った新1年生はさっそく友だちとジャンケンをしたり、おしゃべりをしたりして、楽しい学校生活をスタートさせていました。



小さな鮭の稚魚15万びきを放流 大きな阿賀野川で元気いっぱい泳ぎだす

4月6日、横雲橋下流の阿賀野川で、鮭の稚魚の放流が行われました。

阿賀野川漁業協同組合連合会の関係者により、阿賀野川で捕れた鮭の卵から生まれ、体長6cmほどに成長した稚魚15万びきが、トラックに積まれた水槽からビニールホースを通過して次々と放流され、阿賀野川へ元気よく泳いで行きました。

放流した稚魚のうち約2%が、約4年後に体長50cm、4kgほどに成長して阿賀野川へ再び戻って来るそうです。

鮭漁が阿賀野川の晩秋の風物詩となり、鮭料理が当町の自慢料理となっていますが、鮭が捕れる背景には、20年以上にわたり流域で稚魚放流が行われていることに加え、鮭が上る時期には漁業期間・時間制限を設けるなど、漁業関係者による漁業資源保護の地道な努力が続けられています。

